

## 1 基本構想策定の背景

- 国民健康保険小松市民病院は、南加賀医療圏における救急医療およびがん診療を中心とした高度医療など急性期・中核病院の役割を担っています。
- また、令和2年4月には、「地域医療支援病院」の承認を受け、地域の医療機関との機能分担を図り、地域医療への貢献を目指しています。
- 令和2年から新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に、医療を取り巻く環境は一変しました。従来の人口動態の変化に伴う医療需要への対応に加え、パンデミック対応に関する受入体制を念頭に置く必要に迫られており、将来的な看護師不足や経営改善など課題があります。
- 令和6年3月に策定した、「小松市民病院経営強化プラン」において、経営強化プラン策定委員会より、今後、当院に求められる入院機能・外来機能・診療機能を果たすためには、現在の本館施設では困難との意見が示されました。
- この策定委員会からの答申を踏まえ、当院の現状を明らかにし、今後、地域でどのような役割を担っていくべきか、そのためにはどのような整備をしていくべきかの方向性を示すため、「小松市民病院建設基本構想」をまとめました。

## 2 小松市民病院を取り巻く環境

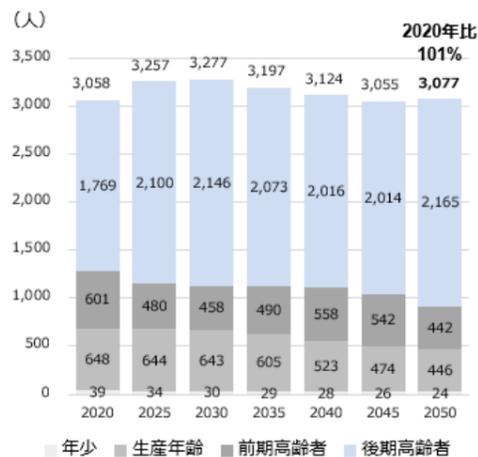
### 南加賀医療圏の人口動向、将来患者推計

- 南加賀医療圏における将来人口は、大きく減少することが見込まれています。2050年の75歳以上の人口は、2020年に対し22%増加する見込みとなる一方、生産年齢人口は67%まで減少することが見込まれています。

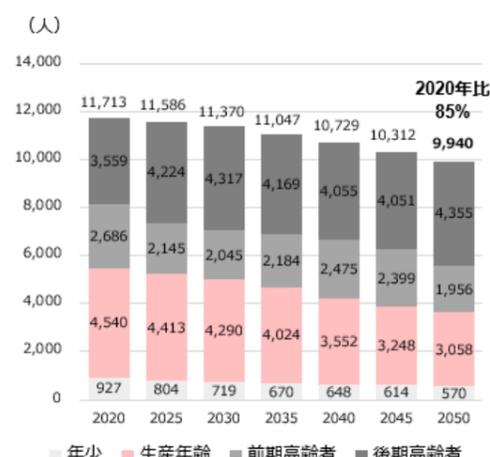


医療圏の年齢区分別人口推計 (単位:人)

- 南加賀医療圏における入院患者数は、2030年まで増加したのちに減少する見込みとなりますが、半数以上を占めている後期高齢者（75歳以上）の入院患者数は、2050年まで高く推移することが見込まれます。
- 一方、外来患者数は、入院患者数よりも早い速度で減少することが見込まれます。入院患者数とは異なり74歳以下の患者数が半数以上を占めていることから、74歳以下の人口が大幅に減少している影響を受け、外来患者数全体の減少が見込まれます。



医療圏の1日あたり入院患者数 (入院医療需要) 推計 (単位:人)

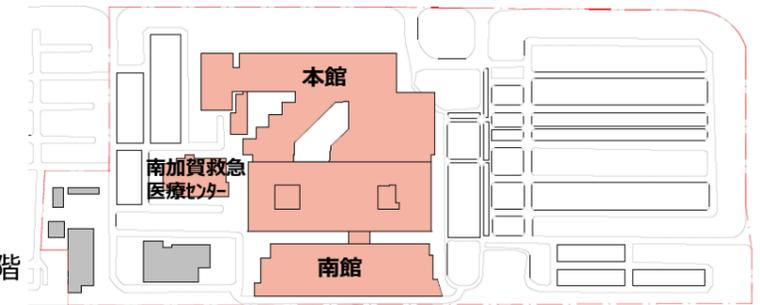


医療圏の1日あたり外来患者数 (外来医療需要) 推計 (単位:人)

## 3 小松市民病院の現状と課題

- 所在地 石川県小松市向本折町木60番地
- 稼働病床数 285床(一般病床263床 うちHCU12床 / 結核病床6床/感染症病床4床)(令和7年3月現在)  
※届出病床数 340床 (55床休床)

- 診療科 28科
- 施設の状況
  - 敷地面積 48,315.95㎡
  - 竣工年月
    - 本館：昭和63年竣工、地下1階・地上8階
    - 南館：平成18年竣工、地上4階
    - 南加賀救急医療センター：平成24年竣工、地上2階



### 老朽化の状況

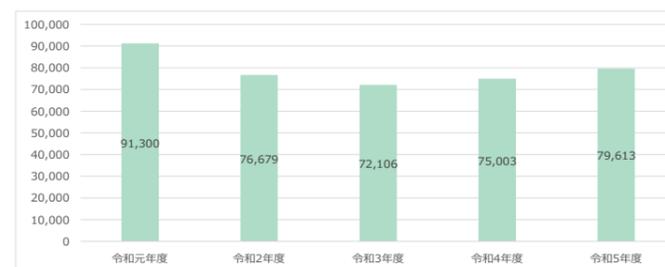
- 現在の本館は、築35年が経過しています。新耐震基準で設計されているために一定の耐震性能は有しているものの、医療機器の進化など新たな医療技術への柔軟な対応が難しくなっています。南館や救急医療センターを増築するなど、面積の狭隘化への対応を重ねてきましたが、その結果、機能が分散することによる動線の複雑化などの課題が生じています。また、配管・排水設備の劣化による雨漏りの発生、建物の経年劣化による外壁のクラックの発生など、老朽化が進行している状況にあります。

### 診療実績の推移 (入院)

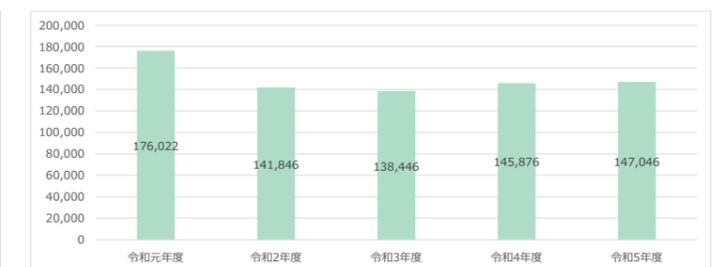
- 当院の入院患者数は、精神病床を令和元年10月以降から休床としたことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和2・3年度は大きく減少しました。
- 地域医療支援病院として、地域の医療機関やかかりつけ医との連携のもと、紹介・逆紹介の推進に努め、高度医療を中心に提供することで診療単価も大幅に向上しています。

### 診療実績の推移 (外来)

- 当院の外来患者数は、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2・3年度は大きく減少し、令和4年度以降は徐々に増加傾向にあります。
- コロナ禍前と比較し外来患者数が減少していますが、地域医療支援病院として、外来診療は地域のかかりつけ医等との連携を進め、入院診療を中心とした医療提供に移行したことの効果など、適切に機能分化が推進できていることの結果です。



小松市民病院の入院患者数の推移 (単位:人)



小松市民病院の外来院患者数の推移 (単位:人)

### 診療実績の推移 (救急)

- 当院の救急受入の状況は、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2・3年度は大きく減少していましたが、令和4年度以降は増加傾向にあります。
- 救急車による来院件数は、一時的に減少したもののその後は増加傾向にあり、令和5年度にはコロナ禍前と比較し約1,000件増加しました。
- 南加賀医療圏においては、当院が二次救急医療の中核を担っており、今後も継続した救急患者の受入体制を維持していく必要があります。

